

平成21年度第5回三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：平成21年11月16日（月）9:30～12:00

場所：三重県水産会館 4階 研修室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議題

(1) 一級河川木津川水系河川整備計画策定に向けて

木津川水系の河川整備計画素案を説明し、主に次のような質疑応答を行いました。

(委員)

木津川の場合、川上ダムが一番問題になると思うが、今の政治の様子から見て恐らく中止になると思う。今回説明して頂いた整備計画は、川上ダムがない場合でも同じ整備で良いのか。

(事務局)

現在の河川整備計画の概要は、川上ダムの整備を前提に説明させていただいた。既に直轄管理区間の河川整備計画が定められており、この中で川上ダムが位置付けられている事から、川上ダム建設を前提として作業を進めています。

(委員)

川上ダム建設中止となった場合の代替案を検討する必要があるのではないのか。

(事務局)

川上ダムが建設中止となった場合、淀川水系全体の河川整備計画が国交省により再検討されると思う。その際には、県としても上下流のバランスを考慮して河川整備計画を再検討する必要があると考えるが、現時点では代替案の検討については考えていない。

(委員)

ハイロチュウヒは、非常に広いヨシ原を必要とする猛禽である。このハイロチュウヒが冬期の長い期間流域に生息するという意味では、そこをエサ場にして生息しているため、ヨシ原が無くなると非常に困る鳥である。河川改修に際しては、かなり配慮が必要であると考ええる。

(事務局)

一度に広い範囲を工事すると、一時的にヨシ原が失われた状況になるため、段階的に工事することを考えている。ある程度年数が経過すればヨシ原も回復することが想定されるので、一度に広い範囲の掘削は行わないよう工事を進めるなど工夫したい。

(委員)

非常に短い間隔で堰が多数存在しているが、全て改築するのか。何か他の方法もあると思うがどうか。

(事務局)

堰の間隔が非常に短く、流下能力のネックとなっている所がある。出来る限り統廃合し、堰の数を減らしていきたいと考えている。

(委員)

改築の際には魚道を設置されると考えてよいか。

(事務局)

改築の際には必ず魚道を設置する。

(2) 一級河川宮水系河川整備計画策定に向けて

宮川水系の河川整備計画素案を説明し、主に次のような質疑応答を行いました。

(委員)

桧尻川の計画規模は1/30とあるが、伊勢市の下水道計画は1/5であること、既往最大でも1/10であることを考えると流域対策等含めてもここまですべて過大にしなくて良いと思うがどうか。

(事務局)

流域内の浸水被害を解消するためには、桧尻川の河道内である程度貯留しなければ浸水被害の解消には繋がらないため、1/30での計画規模を考えているが、国交省との調整がついていないことから、次回の委員会で改めて示させていただきます。

(委員)

大内山川の改修で、崎工区と車瀬工区の所は、水域を保全と記載されているが河床掘削は行わないのか。

(事務局)

多少の掘削が必要になる可能性はあるが、基本的には堤防の整備のみで対応

できると考えている。

(委員)

大内山川の柏野・崎・車瀬工区全てに重要な種が生息している。工事の際に淵などが全部埋まるのではないかと心配しており、その辺を配慮すべき。

(事務局)

瀬・淵については基本的に保全する。教育委員会を通じてアドバイスを頂きながら工事を進める。

(委員)

宮川水系全体に言えることだが、河川環境への配慮事項と言うことで、流域全体どこでもこの地域の在来種、郷土種を念頭において緑化など整備をしてほしい。

(事務局)

土木工事の一般的な手法として、緑化する場合には根付きやすい、繁茂しやすいと言うことで外来種を使用する事例が多い。郷土種での緑化が河川事業で出来るかなどについては、工事の詳細の部分で検討させていただく。

(委員)

宮川水系上流部の流域懇談会での意見として、総合土砂管理が必要との意見が出ているが、これに関してはどの様に考えているのか。

(事務局)

国交省で策定されている宮川水系河川整備基本方針の中で、総合的な土砂管理の記述がある。総合的な事は国交省で進めていただけたらと考えている。県としては、総合計画である県民しあわせプランの重点施策として、計画的な土砂掘削を行っている。整備計画においても、維持管理として土砂の撤去を位置付けるとともに、上流域の砂防についてもある程度の記述はする。

(委員)

整備計画という性格上難しいところもあるかも知れないが、全体的な大きな事しか話が出来ない。川なので、魚類や水生生物などには痛手が大きいと思う。改修の方法や場所など具体的なところが分からない状況では、専門家の意見や助言がもらえないのではないかと。

(委員) 大内山川に棲息するネコギギの分布状況などは、教育委員会が把握していると思うので、どこでどういう工事を行うかというのは一度相談した方が良い。

(3) 今後の予定

次回の流域委員会については、12月10日に開催、開催場所は別途通知することを確認。

対象河川：二級河川志登茂川、二級河川志原川

5. 閉会